

調べものの部屋には、中高生が調べものをするのに役立つ本など約1万冊があります。その中から2か月ごとにテーマを決めて選んだ本を、ウェルカム展示として入口で紹介しています。

※このリストは、展示時点で担当者が選んだものであり、テーマに関する網羅的な資料リストではありません。

テーマ：ボーダー

国境など、「ボーダー」（境界・境目）の「こちら側」と「あちら側」の区別は、時として分断や差別を生みます。一方、未知のものや異質なものと隣り合う特殊な場としての魅力もあり、何が境目を作っているかの探究はものの本質を知ることにもつながってきました。

▶リストの見方

No.	書名（あれば巻号） 著者名(出版者, 出版年)【調べものの部屋請求記号】	【 】の中は、調べものの部屋のどこにあるかを示す請求記号（日本十進分類法を使用）です。
-----	---	---

▶国境

1	地図とデータで見る移民の世界ハンドブック カトリーヌ・ヴィトール・ド・ヴァンダン 著, 太田佐絵子 訳 (原書房, 2019) 【334.4】	移民は、生まれた国から国境を越えて移動し他の国で暮らす人たちです。例えばヨーロッパではEU内の国境が消えかかっている一方で、EU非加盟国の人々は法的な国境や差別に直面しています (pp.56-59)。
2	世界を分断する「壁」：フォト・ドキュメント アレクサンドラ・ノヴォスロフ, フランク・ネス 著, 児玉しおり 訳 (原書房, 2017) 【312.9】	1989年のベルリンの壁崩壊の後も、世界各地で、国境などに壁は作られ続けています。この本では、南北朝鮮、アメリカとメキシコの間などに作られた9つの壁を写真で紹介しています。
3	つながる政治学：12の問いから考える 平井一臣, 土肥勲編 (法律文化社, 2019) 【311】	国境の機能や意味を分析する「ボーダースタディーズ」という新しい学問分野があります。この本の第8章の著者は、その知見をもとに、対馬と朝鮮半島の例をあげ、国境とは均質なユニットとしての国家を分ける「線」ではないことを示し、人やモノを区分けする「ボーダーフルな世界」の中で上手に生きようと呼びかけます。

▶境界の印と境界の魅力

4	柳田国男全集 15 (ちくま文庫) (筑摩書房, 1990) 【380】	民俗学者が塚について考えた文章などが収められたこの巻では、「境に塚を築く風習」 (pp.535-538) で、土地の境を決めたら塚を作ったことが述べられています。それは単なる印ではなく、神的な意味を持っていたようです。
5	ふしぎな県境：歩ける、またげる、愉しめる 西村まさゆき 著 (中央公論新社, 2018) 【291.04】	「県境マニア」の著者が、ショッピングモール内の県境、山頂にある細長い3県の境、綱引きで動く（つもりで真剣勝負する）県境、飛び地などを紹介。境界線は、必要があって人が引いた土地の歴史の記念碑、という著者の、境目愛がいっぱいです。

▶人を分けるボーダー

6	境界を生きる：性と生のはざままで 毎日新聞「境界を生きる」取材班 著 (毎日新聞社, 2013) 【367.9】	性分化疾患や性同一性障害の当事者や家族への取材をまとめた本。男女を区切るの是一本の境界線ではなく、身体的にも心の面でも多様なありかたが存在することが分かります。
7	発達障害の素顔：脳の発達と視覚形成からのアプローチ 山口真美 著 (講談社, 2016) 【493.9】	著者は赤ちゃんの視覚の研究者。自閉症に対して近年「スペクトラム」という言葉が使われるように、発達障害では、感じ方などに共通の要素の程度が違うだけの場合もあり、どこからが障害かというボーダーラインを引くのは難しいと言えます。個々の違いを受け入れる社会をと著者は書いています。
8	成人式とは何か 田中治彦 著 (岩波書店, 2020) 【385.3】	大人と子どもを社会的に分けるボーダーとして、古来からさまざまな成人儀礼がありました。現在では年齢が社会的な区切りとなりますが、2022年度からはその区切りが変わります。ボーダーを可視化する「成人式」を通して成人とは何かを考えます。
9	天才と凡才の時代：ルネサンス芸術家奇譚 秋山聰 著 (芸術新聞社, 2018) 【702】	レオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロなど「天才」とされる芸術家と、同時代の多くの芸術家のエピソードが並べられています。天才を他から区別するものは何でしょうか。

▶境目の解明

10	生物と無生物のあいだ 福岡伸一 著 (講談社, 2007) 【T-460.4】	砂浜の貝と石—生物と無生物—を分かつものは何かという問いは、生命を定義することにつながります。著者は「動的平衡」をキーワードに、生物を構成する原子がたえず入れ替わることで平衡状態=死から逃れ、逆戻りのできない時間軸の上でやわらかくバランスをとっていることが生命の本質であると見ます。
----	--	---

過去の展示の資料リストは、当館HP上の「ウェルカム展示」に掲載しています。 (<https://www.kodomo.go.jp/use/room/teens/exh.html>)